

日本生物工学会の和文誌「生物工学会誌」は、バイオテクノロジー分野のホットな話題を取り上げ、皆様にお届けしています。「生物工学会誌」は「醸造学雑誌」として1923年に創刊されて以来、「醗酵工学雑誌」、「醗酵工学会誌」と名称を変えながらも、90年以上もの長い歴史の中で常に情報交換の場として大きな役割を果たしてきました。これからも読者でありまた投稿者である皆様の声を発信し続けていきます。また、和文誌だからこそ発信できる支部活動や地域の情報も掲載していく予定ですのでご期待ください。つきましては、様々な分野でご活躍の皆様からのご投稿をお待ちしております。

(毎月25日発行 ISSN: 0919-3758 Online ISSN 2435-8630 CODEN: SEKAEA)

『生物工学会誌』表紙デザインについて

『生物工学会誌』の表紙モチーフは、バイオの歴史を過去から現在まで12トピックス選んだものになっています。



農耕のはじまり
(オオムギ)



醸造のはじまり
(ワイン樽)



天然痘の予防接種

(ウイルス)



パスツールの実験
(酵母)



遺伝学の確立
(エンドウ)



染色体説の誕生
(染色体)



ペニシリンの生産
(アオカビ)



ワトソン・クリック
モデルの提唱
(DNA 二重螺旋)

↓



遺伝子組換え技術
の確立 (大腸菌と
プラスミド)



バイオ医薬品の
生産
(抗体)



再生医療研究の
はじまり
(動物細胞)



ゲノム編集技術の
確立
(CRISPR)

『生物工学会誌』は、モチーフはこのままで、毎年背景の色を少し変えてお届けしています。
表紙のみならず、編集全般に関し、今後とも皆様からのご意見や感想をお寄せいただければ幸いです。

(和文誌編集委員会)